



## 福岡大学

〒814-0180 福岡県福岡市城南区七隈8-19-1  
 TEL : 092-871-6631 (代)  
 http://www.fukuoka-u.ac.jp/  
 人文学部、法学部、経済学部、商学部、商学部第二部、理学部、工学部、医学部、薬学部、  
 スポーツ科学部  
 創立：1934 (昭和9) 年 学生数：19,611名 (2015年5月1日現在)

### インターシップでベトナムへ 海外の企業で就業体験



旅行、建設、教育、サービスなど海外のさまざまな業種の企業で課題解決型の研修を行うプログラムを導入。世界を視野に入れたビジネスキャリア形成への意識転換を図るとともに、他者との深いコミュニケーションで自身の強みを認識する機会となっている。2015年度は最大64人を派遣予定。

### 卒業生総数は約25万人 後輩の就職活動をサポート



先輩後輩をつなぐ活動が盛んで、世代を超えた絆の強さは同大学の特徴の一つ。卒業生を招いて自身の学生時代や仕事について語ってもらうプログラム「先輩と語る—大学と社会—」は、学生たちの貴重な情報源となっている。また、全国61の地域支部と38の職域支部で「福大人脈」を支える同窓会組織「有信会」も学生の社会進出の頼もしい味方だ。

### 自治体や企業との連携を推進 学生も地域活動に参加



総合大学の特色を活かして、多彩な研究やプロジェクトを展開。国連にも認定され世界に広がるゴミ埋立技術「福岡方式」、大学がある七隈エリアでの防犯パトロール、福岡市から博多湾に注ぐ室見川でのシロウオ産卵床造成プロジェクトなど、地元自治体や企業等との連携に力を入れている。研究成果を地域社会に還元できるだけでなく、学生にとっても多様な立場の人とつながり、信頼関係を築く経験は社会性を向上させることにつながっている。

### 社会で活躍する、卒業生の今



伊藤忠商事株式会社 勤務

出田 大樹さん

(2000年 商学部 貿易学科卒)

「クラブ活動での目標達成までのプロセスや後輩育成の経験は、今の業務にも活かしています」

大学時代はヨット部でインカレ優勝3回、世界選手権出場を経験。現在は生鮮商材仕入の取り纏めと、農産物国内供給体制構築のために株式会社日本アクセス (生鮮MD部) に出向中。

「高いコミュニケーション能力に加え、未知の世界や異なる国籍・文化を持つ人の中に、堂々と飛び込んでいくアクティブな精神力と能力を持った人」と定義。そのような人材を育成するため「グローバル・アクティブ・プログラム (GAP)」を始動させている。

**グローバル対応力を養う教育プログラム「GAP」**

GAPでは英語を話せる留学生をアシスタントとして活用するなどインタラクティブな授業を重視し、受講者はTOEIC (R) のスコアを1年間で平均100ほどアップさせるという成果を上げている。さらに自己表現力やプレゼンテーション力の向上のため、英

語によるドラマメソッドや役者指導によるワークショップといったユニークな講座も導入。プログラムの集大成として海外での語学研修やインターンシップを実施している。将来的には専門教育科目においても英語による講義の実施を視野に入れており、教員の海外派遣も実施。あらゆる面でグローバルスタンダード化を目指している。

2万人の学生が行き交うキャンパスに身を置き、学部や国籍を超えた交流が日常にあることが対応力やリーダーシップの醸成につながる。九州・沖縄地区の出身大学別社長数1位 (帝国データバンク調べ) の実績、未来志向の人材を輩出し続けられる所以はこうした教育環境にあると言えそう。

## 学問分野、国籍を超えた交流で対人力を育み、 多様性に富む社会で輝ける人材を輩出する



### English Plaza & Language Plaza

ネイティブの教員や留学生と交流できるスペース。「English Plaza」では英会話を毎日、「Language Plaza」ではドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語での会話を日替わりで楽しめる。「留学に備えて」「検定試験の合格を目指して」など目的はさまざま。昨年は3,000人以上の学生が参加した。

「人事が選ぶ大学ランキング」(2014年日経HR調べ)で「対人力」全国1位に選ばれた福岡大学。実社会で通用する高いコミュニケーションスキルはいかにして育まれているのか? その背景に「多様性に対応する教育」というキーワードが見えてきた。

2014年、博多港の外航クルーズ客船の寄港回数は全国2位 (国土交通省調べ)、福岡空港の入国外国人数は全国4位に (福岡市調べ)。世界から多くの人々が集まる福岡市は国際都市としてのポテンシャルの高さから国家戦略特区 (創業) にも指定され、今後はさらに人やビジネスの集積が予想されている。この状況を人材育成の面から支えているのが西日本最大級の総合大学・福岡大学だ。「急

お話を伺った人



**衛藤 卓也 氏**  
 福岡大学 学長  
 大分県出身。1983年福岡大学商学部教授となり、商学部長、エクステンションセンター長、副学長を歴任。2007年に学長就任、現在に至る。専門は交通経済論、交通政策。日本私立大学連盟理事。日本交通学会理事。公益事業学会理事。

少子高齢化が進む日本では、将来にわたって成長を支えるリソースとして女性や高齢者、外国人など多様な人材の活用も大きな課題の一つ。異なる属性の人が協働する社会では、専門的知識だけでなく幅広い教養も不可欠である。同大学で開講している共通教育科目の「教養ゼミ」は、1クラス20人ほどのゼミ形式で行われ、心理学や恋愛、実験化学などをテーマにした多彩な26科目34クラスがあり、全学部の学生が登録可能。学部学科の垣根を越えたディスカッションなどの対話を通して、多様性への対応力を育んでいる。

自分とは違う視点や価値観を持つ人と交流し、自分の視野を広げていく経験は、社会で人材の流動化が進むほど活かされる。そのため同大学では、グローバル人材を

速なグローバル化の進展に対応できる人材の育成を重点項目に掲げています。国際舞台で活躍できる人材を輩出し、広く社会に貢献することが、アジアの玄関口・福岡に位置する本学の果たすべき役割だと考えています」と衛藤学長。

**様々な学部の学生が集い議論する「教養ゼミ」**